

環境ミニ知識

新聞、テレビ、ニュースなどで見聞きするけれど、あまり知らない「言葉」や「現象」について少し知ってもらえたらいいな！と、ミニ知識を紹介するコーナーです。



メタネーション

最近コマーシャルなどでよく耳にする「メタネーション」という言葉。「何だか分かったようでわからない。」そんな思いをお持ちではありませんか。メタネーションとは、水素と二酸化炭素を反応させてメタンを合成する技術のことです。この技術によってつくられる“合成メタン”は燃料として天然ガスの代わりに利用できます。しかし課題もあります。設備の規模や、コストに直結する原料となる水素と二酸化炭素をどのように調達するかという問題です。これらの課題が解決され本格的な運用に至るにはまだ時間がかかりそうです。

汚染水と処理水

処理水放出が物議を醸しだしています。先ず「汚染水」とは福島第一原子力発電所の事故により発生した放射性物質が含まれる水のこと、デブリの冷却によって生ずるものや、そこに流れ込むことによって汚染される雨水や地下水などです。この汚染水からトリチウムや炭素 14 を除く放射性物質を、活性炭や吸着材などのフィルターでの吸着、薬液による沈殿処理などといった科学的・物質的な方法で国の規制基準以下まで処理したものが「処理水」です。その処理水は一時的にタンクに保管することになっており、海洋放出の際は基準等詳細が決められています。

ひとこと



「暑かった！！」いや「暑い！！」今年の夏は本当に暑かった。まだまだ続いている厳しい暑さに、国連事務総長の「地球沸騰時代」の言葉が刺さります。

環境ネットワーク会議では温暖化対策に力を入れ、様々な取り組みをしていますが、もう手遅れではとの思い・諦めが頭をよぎりそうになります。でも諦めたらそこで終わり！孫やひ孫の代にもこの緑の地球を手渡せるよう頑張りたいものです。皆さんと一緒に！



ひらかた環境ネットワーク会議 会報「環境ひらかた」第79号

令和5年10月1日発行（年4回発行）

発行：（特活）ひらかた環境ネットワーク会議



〒573-0042 大阪府枚方市村野西町5番1号

サブリ村野内（旧村野小学校）

電話 072-847-2286

FAX 072-807-7873

Eメール jimukyoku@hirakata-kankyou.net

ホームページ <http://www.hirakata-kankyou.net>

発行責任者：井上 浩一 編集責任者：丸井 晶子

この発行誌は再生紙を使用しています

市民・事業者・行政が協働し 環境先進都市を実現する ひらかた環境ネットワーク会議 会報誌

NO. 79

秋号

令和5年

(2023年)

環境ひらかた



今年もやりました 天の川を遊ぼう！



環境ミニ講座 ～夏休み親子教室～

8月19日、今年も定員いっぱい20組の親子に参加いただいて実施しました。川に行く前に「自然環境保全」について、事前学習をしてから移動。川に入る前には、みんなでごみ拾いもしました。川の中に入って、「どんな魚がいるかな？」網でガサ



ガサ！大きい魚は捕まえられなかったけれど、ガサガサを楽しみました。最後はヨシ船レースで大いに盛り上がりました。

****目次****

環境ミニ講座 天の川を遊ぼう！	P1
パネルディスカッション インターン生も参加「若者の意見を聞こう」	P2・3
部会報告	P4・5
お知らせコーナー	P6
環境トピック VOL.45	P7
環境ミニ知識	P8

パネルディスカッション

～若者の意見を聞こう～



「地球温暖化」「日本のエネルギー政策」これらについて若い人たちはどう考え、どう思っているのだろう。そんな思いで、去る8月9日、サプリ村野環境研修室でパネルディスカッションを開催しました。

当日は13名の会場参加者と、大学生4名をパネラーに迎えて開催しました。会場参加者の平均年齢はおそらく75歳、一方学生の平均年齢は20歳という大きな年齢差がある中で行いました。パネルディスカッションの中で学生から聞こえてきたのは、温暖化については「地球温暖化の問題は知っているが、普段の生活への影響は特に感じていないし、具体的に自分が何をしたらいいかが分からない」「エアコンの温度設定など確かな情報が分からない」「今回のような機会が無いと積極的に情報を採ることはなかった」でした。また会場からの「環境教育は小学校から大学までの間、どこで受けたか」の問いについては、農学部の学生が「農学部なので、授業の中で環境のことを学んでいる」という声はあったものの、他は「小学校の授業で環境のことを学んだが、その後は受けたことがない」とのことでした。日本のエネルギー政策については全く知らない状況が見え、これらの問題を、世代を超え共有するにはまだまだだという事を実感させられました。

今年もゴーヤを育て、緑のカーテンに取り組みました



ひらかた環境ネットワーク会議では温暖化防止活動の一環として枚方市が取り組んでいる緑のカーテンと連動し、今年もサプリ村野でゴーヤを育てたい方を募集しました。ゴーヤ育成の指導もあり、自分の苗に名前の札をつけて、MYゴーヤとして育てました。土づくりから、苗植え、収穫、ネット外しままでを2週間に一度集まって行い、水やりに来ては成長に目をみはり、収穫の楽しみも味わいました。

環境トピックス

Vol.45

私達を取り巻く環境は日々変化しています。最近の環境問題や、環境に関する事柄について「知ってほしい・知らせたい」情報などをこのコーナーで伝えていきます。今回は、「CO₂を食べる自販機!?!」「村野浄水場に太陽光発電設備設置」の問題です。

◆CO₂を食べる自販機!?!

随分前のニュースで恐縮ですが、7月7日の朝日新聞に見出しのような記事が記載されていました。ご覧になった方もあるかと思いますが、“CO₂を食べる”と言うのは、自販機の下部に設置されたCO₂吸収材(粉末状)が大気中のCO₂を吸収するということだそうです。つまり、これはCO₂削減技術として世界中で進められている「DAC(Direct Air Capture: 直接空気回収技術)」の超ミニ版と言えます。

さてこのCO₂吸収材が設置された自販機は、自販機を稼働させるための電力由来CO₂を最大20%削減できるというのですが、これはあくまでも実証実験に過ぎません。吸収したCO₂を利用する循環モデルが構築されることが望まれるのは勿論ですが、吸収材の製造過程における環境負荷の問題や、吸収したCO₂の活用時における問題等々を、LCA(ライフサイクルアセスメント)の視点で評価しなければいけません。つまり、製品やサービスの素材や原材料の調達から、製造、流通、消費、廃棄に至るプロセス全体で評価する必要があります。とは言え、国内にある約268万台(2022年末)の自販機、その8割強を飲料系が占めているというのですから、このCO₂を食べる自販機に期待が膨らみます。

◆村野浄水場に太陽光発電設備設置

関西電力は8月9日、国内最大の給水能力を持つ村野浄水場に495Kwの発電容量の太陽光発電設備を導入したと発表しました。発電量は年間約57万Kw/h、二酸化炭素の削減量は年間約177tを見込むそうです。

今回設置に至った経緯は、昨年3月に関西電力と村野浄水場を運営する大阪広域水道企業団が締結したカーボンニュートラルの推進を目的とする「包括連携協定」に基づく取り組みによるものです。



ちなみに村野浄水場では、1985年には、海藻系浄水施設内の池の推移さを利用した小型水力発電機(最大出力240Kw)が、また2001年には、沈殿池における藻類の発生を遮光により抑制するため、カバーを兼ねた太陽光発電パネル(最大発電容量360Kw)が設置されているのですがご存知でしたか。



お知らせコーナー

このコーナーの情報に関する申し込み、お問い合わせはひらかた環境ネット会議事務局までご連絡ください。 ☎072-847-2286

天の川クリーン&ウォークのお知らせ

毎年開催されている「天の川クリーン&ウォーク」にひらかた環境ネットワーク会議も参加します。今年も下記の要領で開催されますので、ぜひ皆さんも一緒にごみを拾いながら天の川を歩いて、川に親しんでみませんか。



日時：10月28日(土) *雨天の場合は11月4日(土)に順延
午前9:30受付 午前10:00開始 約1時間程度
内容：天の川流域・河川敷のゴミを拾いながらのウォーキング

※当日ご参加いただける方は、事務所近くの浜橋においでください。環境ネットのノボリ旗が目印です。

後期環境ミニ講座&環境ティールームがスタートします

毎月開催している「環境ミニ講座」と「環境ティールーム」。ミニ講座は第4木曜日の13:30~15:00、ティールームは第2木曜日の10:30~12:00に行っています。両講座の後期プログラムが下記の通り決まりました。詳しくはチラシをご覧ください。

ミニ講座		ティールーム	
10月26日	どんぐりクラフト「秋をお部屋に」	10月12日	電力自由化10年を振り返る
11月30日	クラフト「お正月のしつらえを手作りで」	11月9日	大規模森林火災と温暖化
1月25日	何ちゃってティラミスでバレンタイン	12月14日	環境に優しいを考える
2月22日	クラフト「マグネットシートを有効利用」	2月8日	ごみの分別のウソ・ホント

環境出前授業スタッフ募集中!!

環境教育部会では、部会員が、児童の目線で「自らが考え行動できる環境出前授業」を目指して自身の経験や知恵を出し合って培ってきたノウハウや、開発してきた体験機材といった貴重な財産があります。

こうした“財産”を活かして「環境問題を自分事として考えてもらう」環境啓発の一助として、環境出前授業の担い手スタッフになって一緒に活動してみませんか？

環境教育活動に関心のある方は、お気軽に事務局までご連絡ください。



※これまでの環境出前授業は、右のQRコードで確認できます。

環境家計簿に初めてご参加された方からの嬉しいコメントをご紹介します。
「このような取り組みを知り、より一層枚方市に住んでよかったという思いと共に、もっと地球のことそして自分たちの心地よい快適な生活とのバランスをうまくとるにはどうすればよいかと考える機会となりました」

インターン生！この夏、環境について学びました



石村 香清 (関西外国語大学外国語学部英米語学科)

インターンシップに参加させていただいて、これまで学んできたことや今知っていることはほんの一部だったと感じました。そして環境問題は私が思っている以上に深刻化していることも知りました。今回のインターンシップでは、私たち学生に「どんなことができるだろう」と企画書を作ってみることになったのですが、目的や目標設定、さらには実現の可能性など、たくさん問題点を指摘され、企画を1つ創り上げることがこんなにも難しいことだと痛感させられ、とても貴重な体験となりました。これからもこのインターンシップで学んだことを活かし、まずは自分でできそうな小さなことから、そして自分事として考え知らないことは調べ行動に移していきます。



鎌田 実那 (関西外国語大学外国語学部英米語学科)

インターンシップ参加前までは環境について考える機会はほとんどありませんでした。しかし、日々の活動の中で環境について考える時間が増え、次第にコンセントを抜いたり、エアコンの温度を高め設定するなど、環境に優しい取り組みを意識し始めました。企画書作成に関しては、環境問題に対して無知の状態からのスタートだったので、苦戦しましたが、職員の方々からアドバイスをいただき、取り組むことができました。企画したものを実現させる難しさや、話を聞く力・伝える力など、普段の会話からもたくさん学ばせていただきました。職員の皆さんと交流した10日間は、とても刺激的で価値あるものでした。



家田 くるみ (龍谷大学 農学部 食料農業システム学科)

私自身農学部ということもあり、環境について学んだことを実践として活かせる機会になればと思いインターンシップに参加しました。実習では環境問題や社会情勢について自分がどれほど知ろうとしていなかったのかということを実感し、自分から知ろうとする行為が大切だということを知りました。また、企画書作成では「思いを伝えるには」ということを日々考え、自分の思いのなぜ？を突き詰め、それがどこからきているのかを深く考えることができました。そして自分の思いを言葉にすることの難しさ、伝わったときの喜びも学び、失敗体験から学ぶこともあるが、成功体験を積み喜びの感情を持つことも必要だと感じました。今回学んだことを生かし、自分の夢に向かって後悔のない人生を歩んでいきます。





部会活動紹介

ひらかた環境ネット会議では、それぞれテーマごとに部会を結成し、主体的に活動を行っています。

環境教育部会

この夏 環境出前授業の財産「ノウハウ」が活かされました！

環境教育部会の会報誌夏号以降の取り組みをご紹介します。まずは夏休み明け、9月に2件の出前授業を行いました。一つは**蹉跎西小学校**、そしてもう一つは**禁野小学校**です。1件目の蹉跎西小学校では「校庭の樹木から木の役割を学ぼう！」をテーマに、身近な校庭の樹木を観察しながら自然環境保護の大切さを知ってもらいました。2件目の禁野小学校からは初めての依頼で、1年生2クラスを対象に「ごみ釣りゲーム」を行いました。「ごみ釣りゲーム」という遊びを通して、ごみの分別、循環型社会を知る入口になったのではと思います。



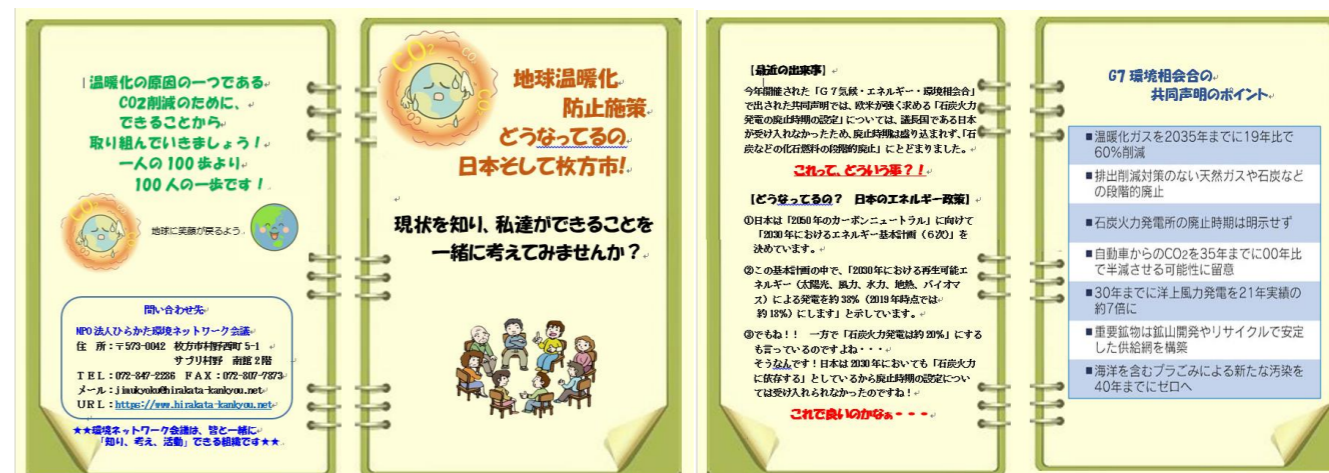
また、夏休み期間中の7月22日に実施された環境ネットワーク会議主催の「環境ミニ講座「夏休み親子教室 ～ソーラーミニカーでエネルギーを学ぼう～」」では、親子でソーラーミニカーを作る際のサポートは勿論ですが、ミニカーを走らせた後、蓄電型のソーラーハウスの模型を使って自然エネルギー（太陽光）を利用した「脱炭素社会」の生活事例を紹介しました。そのなかで、天候に左右されたり、夜間の発電ができなかったりといった太陽光発電の不安定さをカバーするには、蓄電池の役割が大きいことを知ってもらいました。



自然エネルギー部会

久々の街宣でCO₂削減をPRしました

去る10月10日、五六市会場の一角(阪口医院前)で、久しぶりに街宣行動をしました。会報誌夏号に記載したチラシ案、皆さんは覚えていただいているでしょうか？そのチラシ案をもとに受け取ってもらいやすいようにA4二つ折りにしたものを配りました。併せて、「CO₂削減のためあなたは何をしていますか」との問いを投げかけ、5個の削減行動を提示して、実践している項目にシールを貼ってもらいました。



公共交通部会

「バス！のってスタンプラリー」を開催しました

3年ぶりに一堂に会しての「バス！のってスタンプラリー」を9月30日に実施しました。33回目となる今回は“スイーツGo!3”をテーマに、市内に設定した16カ所のスタンプポイントを回ってもらいました。16ポイント全部回れなくても5ポイント回れば1回ガラポンができるというお楽しみや、スタンプポイントでもあるお店でスイーツを買い求めて「ホット一息」という楽しみもでき、参加者の皆さんはそれぞれの楽しみ方をされたのではないのでしょうか。さてさて最終的に全ポイントを制覇された方は何人おられたのでしょうか。(ちなみにこの原稿は実施前に書いています。)

